



2016 年 10 月

第256号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 中塚 辰生
副会長 小口 多津子 多河 敏子
書記 久保田 貞視 小口 多津子
会計 長谷川 あや子
林外会長 並木 雍子
担当主事 中里 敦
プリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 清 多河 敏子
直前会長 長谷川 あや子

国際会長主題 Joan Wilson (カナダ) 「私たちの未来は、今日より始まる」
スローガン: 「手を取り合えば、もっと多くのことができる」
アジア地域会長主題 Tung Ming Hsiao (台湾) 「ワイズ運動を尊重しよう」
スローガン: 「よりよい世界のために、ワイズメン・ファミリーの絆を強めよう」
東日本区理事主題 利根川 恵子 (川越) 「明日に向かって、今日動こう」
スローガン: 「手を取り合って、今、行動を！」
あずさ部部長主題 浅羽 俊一郎 「あずさ部は財物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
クラブ会長主題 中塚 辰生 「クラブ活性化に全員が一歩前進」

2016年10月 第一例会 (中大学Yナイト)

担当B班: 辻、茂木、並木、望月、佐藤、久保田

日時: 10月8日 (土) 18:00~20:00

場所: 北野事務所 2階 大会議室

受付: 井上なるみ、牧野充幸

司会: 佐藤千紘

開会点鐘 会長

ワイズソング 一同

ワイズの信条 一同

ゲスト・ビジターの紹介 会長

聖書朗読・食前感謝 佐藤克彦

会食 一同

卓話 「台北国際ユースコンボケーション (IYC)
体験報告」 須藤利貫、佐宗伶子

スマイル 渡邊 敦

報告: 連絡事項 会長・担当者

YMCA報告 担当主事

スマイル金額報告 渡邊 敦

Happy Birthday 会長

閉会点鐘 会長

巻頭言

「関わること・遊ぶこと・悩むこと」

小口多津子

表題は、9月9日~11日までYMCA 山中湖センターで開かれた第29回YVLFで基調講演をされた青山鉄兵氏の講演のタイトルでした。

ボランティアリーダーになって、1,2年の学生や社会人の為の3日間のフォーラム。ここ通年の目標は、今、リーダーに求められること、です。

今年は、東日本区各地のYMCAセンターから32名、カウンセラー6名、講師の青山さんと今年の事務局スタッフは山手センターの岡田さん、松本さん。来年の事務局西東京センターの出沼さんとワイズの参加者26名。今年の実行委員長は昨年度のユース事業主任浅羽俊一郎さん。

青山鉄兵氏の若者への呼びかけには圧倒されました。ご自身の長い経験から、リーダーに求められることの一つが、

先月の例会ポイント (9月)		BFポイント	
在籍	18名	切手 (国内・海外)	165g
メン	13名	累計	515g
メイキャップ	1名	現金	0円
出席率	72%	累計	0円
メネット	4名	スマイル	8,030円
ゲスト	6名	累計	14,632円
ビジター	10名		
ひつじぐも	4名	オークション	0円
		累計	0円

(聖句)

「泣きながら夜を過ごす人にも／喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる。」

(詩編30章5節後半)

人と関わって人は育つという精神で、一人ひとりを大切に、そして関わりをやめないこと。リーダーとは親や先生には言えない悩みを抱えた子供が心を開く存在であること。なるほどと、私達にも言えること、ワイズは人と関わってこそ育つ、一人ひとりを大切に、関わりをやめない、に置き換えて思わなくなってしまいました。

二日目の昼食は、ワイズカレーと称してキャンプ場の炊事場で参加ワイズが全員でカレーを作りました。もっとも、ご飯とカレー材料はセンターで用意して頂きましたが、大鍋二つ分の野菜のカットはまさに男の料理状態でした。またグループごとにリーダー達がカレーを湖畔まで運んだり、広場で輸になったり、この思い出は決して忘れられない宝となるでしょう。

東日本区の全クラブが毎年2万円をこのフォーラムの為に寄付して成り立っています。リーダーの交通費、宿泊費の一切をまかさないです。ワイズメンのプログラムとしてはカレーを作り、日曜日の早朝礼拝を担当するだけです。それだけでもいいからと、各クラブのワイズがこの山中湖センターにもっと参加してもいいのではないかと思います。この山中湖で往年の自分の姿を思い出して今の若者の発言に目を見張って、ワイズ同士で語り合うもいいです。何故か、不思議と時間が止まり、まだ自分の人生がこの先長いことを実感できます。

月明りの中のキャンプファイアーはまた格別でした。キャンプソング、笑い転げたゲームを終えての帰り、暗い林の中に長く伸びたその道を照らす、沢山の小さなランプの流線形の通り道、これには本当に感動します。

私は4年連続で参加させて頂いています。かつて八王子クラブが5周年記念として植樹したイチョウの木2本の成長を見届ける役目を名目に。



報告の樹々八王子クラブ

2016.10.11



小口さんです！

山中湖YMCAリーダーズフォーラム

東京八王子クラブ・9月例会に出席しました

東京西クラブ・吉田明弘

土曜日の例会も良いものですね。東京西クラブの仲間と新宿を少し早めに出て、例会場に隣接する北野天満神社を訪ねてから、会場の北野事務所に入りました。すでにメンバー、メネットの多くが集まり、例会の準備と談笑をされていました。しばらく経っても空席が多いので、今日は欠席が多いのかと、時計を見たら、まだ定刻15分前でした。余裕がたっぷりあります。久しぶりの方と言葉を交わし、欠席されている方の近況を知ることでもできました。

定刻午後6時に開会。配られた中塚辰生会長のメモに参加者名が記されています。高尾山に登る会、八王子市国際交流の会、中央大学YMCAなど、ゲストが10人ほどおられました。私たちのクラブも見習いたいところです。4年で入れ替わる大学生と途切れることなく関係を保つために、絶えず細やかな心くばりをされているのでしょう。

この日は、熊本むさしクラブの田上正さんの卓話に時間をとろうと、司会の山本英次さんが手際よく進行されました。これまで東京八王子クラブの例会には、過去10数回参加していますが、この日は、勝手が違いました。これまでの例会は、何か火種が仕込まれているかのように、ある発言を巡って突然、真剣で激しいやりとりが起きました。外部から来会した者にとっては何が起こったのかわからず、ここに居ていいのだろうか、戸惑うことがありました。この日は、整然と進み、私に限れば、分かりやすい、好みの例会でした。でも、こちらにとっては、一瞬途方に暮れるやりとりが、クラブの活力になっているのかも知れませんね。

閉会后、二次会に誘われ参加したのですが、ホストクラブのメンバーよりも東京西のメンバーが多いのに驚きました。毎年行うチャリティーコンサートの打ち上げの盛り上がりを見れば、決して嫌いではないのですが、夜が苦手になってきていること、クルマで例会に来るメンバーが多いためでしょう。

ここではゲストが主役。楽しい時でした。祭りは、氏子だけでは盛り上がりません。

高尾山の会のお二人とは、富士山例会、甲府21クラブの納涼例会で一緒しました。国際交流の会の方には、卓話をお願いしました。

二次会に参加しなくても、第二例会、YMCA西東京センターの会合、老人施設のボランティアなど、メンバーの顔合わせ頻度は高く、親睦の機会があるようです。

私たちのクラブも、二次会参加が減っています。例会の後、気楽に参加できる講師を囲んで、くつろげる、ワンドリンクの会が出来たらと思っています。

収穫の多いクラブ訪問でしたが、タダではありません。二日後に原稿依頼がきました。

9月例会・卓話報告

長谷川 あや子

2年越しのラブコールが叶い、ゲストスピーカーに田上正さんをお迎えすることができました。2年前の秋、東京西クラブの例会で田上さんの卓話をお聞きし、是非八王子クラブでもと願っておりました。卓話のタイトルは「がんの疾患軌跡とアドバンス・ケア・プランニング」・・・当日はメンバー・メネット・ゲスト・ビジター・中大ひつじぐもの皆さん、計37名の出席でした。特に東京西クラブからは田上ファンの7名が馳せ参じて下さいました。

◎がん、とは何か？

がん細胞は1cmになるのに30世代、10年以上かかるがその後1kgになるのに10世代、3年という速さで増殖する。免疫力で消えるものもあるが生き残るものもある、今日一日、私達の身体に5000個出来ているそうです。活性酸素が遺伝子を損傷するが一番影響を及ぼすのは勘論です。(蓄積するから)

我が国の現状は2015年、がんの診断を受けた人は98万人。1980年以降、がんは死亡の第一位である。がんで多いのは①胃がん②大腸がん③肺がん。現在はほとんどが告知を受け、治療を継続しながら多くの人が治っていくようになった。慢性疾患として考える時代となった。がんの部位にもよるが、5年生存率は平均63%という。70歳以上になると半分近くが、がんの経験ありという時代になった。

◎がんの疾患軌跡とは？

がんの場合、ほとんどの機能が保たれ、元気の状態が続いていて、死亡の1~2か月前に状態が悪化する。

◎緩和ケアの定義の変遷

昔はターミナルケアといって治療が有効でなくなったときに使われたが、2002年WHOで緩和ケアの定義が変わった。病気に直面している患者と家族の痛みを緩和し、治療を支えるケアから終末期ケアまで・・・身体的、精神的苦痛、経済的なこと、仕事、家庭の悩み、生きる意味、死の恐怖、自責の念・・・を支えながら最後の生き方の支援、その人らしい最後を迎えるための支援をするようになった。

◎アドバンス・ケア・プランニング

意思決定の低下に備えて気がかりなことなど話し合っておく・・・病気の見通しや治療の選択に関すること、してほしいこと、してほしくないこと、心配なこと、どこで療養したいかなど「私が大切にしたいこと」を医師と話し合う。それは途中で変えてもよい。DNAR—蘇生するかしないか、家族間でギャップがないように、よく話し合っておくことが非常に大切です。

◎どこで最期を迎えるか？

自宅で最期を迎えたいという希望も、介護する家族の負担が大きいこと、病状が急変したときの不安などから在宅療養に移れない現実がある。一方、緩和ケア病床が少ない事、看護師不足などの理由で仕方なく在宅でという事もあ

る。よい緩和ケアをするにはどうしたらよいか、地域ぐるみで対策を立てている。以前は高齢者を支えるのは10人位いたが→2~3人での肩車の時代である。元気な高齢者を目指し、お互いに支え合う社会でありたい。

☆田上さんはウルトラランナーで100キロマラソンを13回完走されたそうです。2011年の阿蘇スーパーカルデラマラソン大会では完走は出場者のうち、男性63%、女性48%だそうですが、その時はビリだったというエピソードを教えてくださいました。過酷なレースで歩数は124,700歩だったとか。

最後に熊本地震の報告がありました。益城総合体育館の天井修理のために「巨大天幕プロジェクト」が実施され、140人のボランティアが布を縫い上げ、天幕を作り上げた映像が写されました。ワイズとYMCAが中心となり一丸となつての働きでした。そして2017年6月第2土曜日には西日本区大会が熊本で開催されます。一心から応援いたします。—



田上正氏 東京区八王子クラブ理事兼副会長

9月の他クラブ訪問REPORT

久保田 貞視

1. もりおかクラブ10周年記念例会

9月17日(土)盛岡駅前のメトロポリタン盛岡で13時より北東部会が開催され、続いてもりおかクラブの10周年記念例会が開催され、出席しました。

北東部会では、昨年度のエルマクロー賞が仙台クラブの中川典幸ワイズに授与され、利根川理事より伝達式が行われました。また、STEP交換留学生のデンマークからのエスペン・ランズガード氏(高校生)が挨拶と共にデンマークのワイズの現状を簡単に紹介しました。

もりおかクラブ10周年記念例会は、評議会に続いて西のDBC2クラブを含め86名の出席者のもと、井上会長の開会点鐘、続いての挨拶「ワイズはいいな!YMCAはいいな!」で元気よく始まりました。10年前に設立し、5年後には東日本大震災に遭い宮古をボランティア拠点として支援活動を継続、東西ワイズメンとYMCAの積極的な協力をえて対応してきたこと、直後、花巻での東日本区大会を開催したことに触れ、今度は、盛岡でチャリティランを実現することに精力を注ぎたいと力強い挨拶でした。

ゲストスピーチは、渚亭たろう庵社長の松本勇毅氏

により「あれから5年、あの日を忘れない」と題して講演。田老では明治・昭和8年の地震と津波の経験を踏まえて立派な堤防を築き、津波が来ればすぐ逃げることを訓練し、徹底したが予想外の津波で180名の犠牲者を出したなどの報告があり、本人が当日、自分のホテルの屋上から撮影した津波来襲のビデオを披露されました。その後、祝宴に入り、そこでも日本YMCA研究所の光永所長より「熊本震災の現状報告」と共に支援要請がありました。懇親のあと、大関実行委員長の感謝の挨拶があり、閉会点鐘となりました。もりおかクラブ激動の10年をメンバーの団結で乗り切った結果の例会でした。

2. 東京たんぽぽYサービスクラブ

9月13日(火)に山手センターで部長公式訪問の9月例会として開催されたため部主査として出席しました。卓話は講師を呼ばずに、「部長と語ろう：あずさ部を楽しむ方法」として浅羽部長の発案で意見交換を行いました。会員獲得、卓話の充実、魅力あるクラブづくり、地域での知名度向上策など多くの意見が出されました。続いてミニオークションがあり、越智ワイズの美声の掛け声に全商品が売り切れました。

その後、伊丹亭で懇親会となりました。あずさ部の役員では小山久恵書記、尾内会計が出席しました。

3. 富士五湖クラブ「第14回富士山例会」

八王子クラブの2名(長谷川ワイズと久保田)及び西クラブ本川ワイズを含む高尾山組7名は2016年9月24日(土)9時に富士山駅に集合、そこに、武蔵野多摩クラブの3名とユースの藤永君、ビエール・ステファン君(カメルーン)が加わり合計12名にガイドの駒ちゃん(駒山祥子さん)が入り13名はYMCAのバスに乗り、吉田口登山道の馬返しまで送っていただいた。

吉田口登山道は江戸時代から富士山頂への登山道として賑わったが、富士スバルラインの開通で登山者が激減、静かな登山道で神社の建物跡、登拝記念碑、廃屋が残り昔日の面影を偲ぶ登山でした。最初から雨で、4合目を過ぎたころは嵐のような豪雨となり、その中を黙々と登り、14時前には佐藤小屋に到着。

参加者は、当クラブがDBCと予定している京都洛中クラブから3名、神戸ポートクラブの大野勉ワイズ(次期西日本区理事)山手クラブの浅羽あずさ部長など49名。佐藤小屋につくと、病気で入院しているはずの望月ワイズの笑顔の握手にまさかと思ひ感激。

例会は原会長の挨拶と入院中の望月ワイズが元気な姿での参加を伝えての感動的なものでした。続いて、東京サンライズの御園生会長は「おんぶにだっこ」で富士五湖クラブへの感謝の挨拶。そして、あずさ部長の公式訪問としての挨拶で例会を進められた。

ミニ講演は、ガイドの駒ちゃん(駒山さん)の「マラソンに見せられて」としてホノルルマラソンからニューカレド

ニアの国際マラソンに転じ、毎年参加していること、現地の人人や著名なマラソン選手との交友関係にも触れられた楽しい話でした。

第2部は恒例のガーデンパーティー。当初雨が降っていたが、遅くなるにつれ止み、皆、庭に出て、BBQ、うどん他食べ放題、酒飲み放題での交流となりました。

米国モントレからの父娘も参加、二日前には雨で中止、明日、富士山登頂を試みる由。

28日は晴れ、朝4時半に庭に集まり、6合目まで40分で登り、日の出を拝みました。富士山頂上もくっきり見え、天気良く登山客も数人と会うことができました。

8時半に佐藤小屋を出発し、「奥庭コース」を散策していつもの温泉に入り、昼食を取り、解散しました。私達を富士山駅まで送ってくれて、富士急行の登山電車で帰路につきました。いつものことながら富士五湖クラブの皆様のおもてなしに甘えた楽しい二日間でした。今回は、中大ひつじぐもOBの藤永君とビエール君のユースも参加して盛り上がった例会となりました。



IYC REPORT-1

行動すること

中央大学 YMCA 須郷利貴

はじめに、IYC という素晴らしい経験の場へ私を推薦してくださった八王子ワイズメンズクラブ・東日本区のワイズメンの方々へ感謝の意を表したいと思います。特に、八王子ワイズメンズクラブの方々には、資金面での援助はもちろんのこと、参加以前から手厚いサポートをいただきましたこと、深く感謝しております。また、参加することを勧めくださった中央大学YMCAのOB藤永さん、中央大学YMCA委員長の佐藤さん、ありがとうございます。お二方のアドバイスがあったからこそ、参加を決断することができました。そして、東日本区大会では渡辺さん、藤永さんによる講座がIYCに向けてよいトレーニングになったと感じています。特に、甲府ワイズメンズクラブのピーター様による英語講座はIYCに向けて英語を勉強するよいモチベーションになりました。このほかにも、IYCにあたり様々な方のサポートを受け、IYCを無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

IYC の講義の中では「コミュニケーションの方法」についての講義が印象的でした。その講義では、話し相手がうまく自分の思いを伝えられていないという場面に遭遇した場合、どのように対処すればよいか、というものでした。今まで私は、コミュニケーションとは自分の思い、気持ちをどう相手に伝えるか、その点ばかり考えていました。しかしこの講義から、コミュニケーションとは相手の思い・気持ちを聞きに行く姿勢も大切であると感じました。また、この能力はリーダーにとって欠かせないと思います。リーダーが思いを聞きに行けば、リーダーにとってはよいアイデア・成果を引き出すことができ、メンバーにとってはリーダーに思いを伝えようと努力しようとするのではないかなと思うからです。

そして、今回の IYC に参加して私が得た大切なこととは「行動すること」です。参加する前は、言語面での不安はあったものの、思い切って IYC に参加してみると貴重な経験ができましたし、IYC の間も思い切って行動してみて、良い成果を得られたことがありました。その結果、思い切って行動することが増え、困っている外国人に声をかけたり、クラブの活動に今まで以上に参加しようと思うようになりました。このように、頭であれこれ考えて行動することをためらわなくなったのは、IYC に参加して得られた大きなものだと思います。今後も、私は思い切って行動していき、貴重な体験を経験し続けて成長していきたいです。



IYC REPORT-2

IYC が私に与えてくれたもの

中央大学 YMCA 佐宗 伶子

私は今回初めて IYC に参加しました。参加した理由は二つあります。一つ目に、高校生の時に留学した経験が今回のプログラムと似ており、もう一度、あの時の世界中の同じ年頃の学生たちと交流する楽しさを感じたいと思ったからです。二つ目に、将来、世界を股にかけて働きたいと考えている私にとって、彼らとディスカッションをし、文化交流をすることは世界観を磨くために必要だと思ったからです。私はこのような理由から参加したいと考えていたので、長野の事前研修でいかに自分が YMCA について知らないか気づかされました。しかし、そこで知識のフォローがあり、現地ではある程度セッションについていくことができました。また、研修中の英語のオリエンテーションで外国人の先生がおっしゃっていたことがとても印象的でした。それ

は「何か一つでいいから楽しみをもっていくこと」でした。参加者一人ひとりには多くの不安があったと思います。私も英語力には自信がりましたが、YMCA についての知識には不安がありました。そこで、自分の中で世界に友達を作ろうという目標をもって行くことにしました。簡単な目標かもしれませんが達成可能な目標を掲げることで七日間を充実させることができました。

さて、ここからは台湾での七日間についてです。私にとってこの七日間は多くの出会いにあふれたかけがえのない日々となりました。ディスカッションについては、受け身になっていたり、ファシリテーターとリーダーに任せきりになっていたため、達成度に点数をつけるならば 60/100 点ぐらいですが、交流の面では 100/100 点と自信をもって言えます。コミュニケーションの際は、積極的に質問したり、話しかけたりしてお互いの文化の違いを見つけあいながら楽しむことができました。七日間が濃厚で楽しい日々だったので、帰国してからは周りが英語でない環境に逆カルチャーショックを覚え、他国の参加者とチャットする日々でした。今でもお互いが帰国して以来、ずっとやり取りをしている友人ができ、国境を越えた一生の友人ができて嬉しく思っています。こうして世界に人脈をつくり、さらに世界観を磨くことができ、グローバル社会に生きる人間として成長できたと感じています。

ディスカッションではファシリテーターの重要性を学びました。私のグループのファシリテーターはチリからの二十歳の男の子でした。ディスカッションが行き詰った時に新たな方向から提案し、テーマからそれないように誘導したりする姿に驚きました。世界のユースからディスカッションの運び方、良いディスカッションとは何かということ学ぶ機会になりました。

IYC の一カ月後、他団体ではありますが、内閣府主催の国際交流事業への参加を予定しています。派遣国のラオスの学生と交流する機会がありますが、今回学んだ良いディスカッション、また交流への積極性を活かしていきたいと思えます。今後、どのような場でリーダーという立場にたつかわかりませんが、この IYC は既に多くのことを与えてくれました。リーダーとしてでなくても、この経験が活かされるように今後もボランティア活動やサークルの活動に参加していきます。

最後になりましたが、この度は貴重な機会を与えてくださった東京八王子ワイズメンズクラブ、中央大学 YMCA の皆さまに大変感謝しております。本当にありがとうございます。



中大・学Y便り

ワイズ例会

1年 坂本菜美

9月10日のワイズ例会にて、東京医科大学麻酔科学分野臨床教授・緩和医療部部長の田上正先生の貴重なお話を聞くことが出来ました。卓話タイトルの「がんの疾患軌跡とアドバンス・ケア・プランニング」を読んで、現在では日本人の3人に1人の死亡原因になっている慢性病“がん”について学びたいと思い、今回初めて参加しました。

先生のお話で面白いと感じた点が主に2つありました。

1つ目は、最期を過ごすのはどこがいいかという質問に対して、最初は自宅で過ごしたいと答える人が多いが実際にそうするのは10%程で、医療機関で亡くなる人がより多いという事実です。理由は、家族に負担をかけたくない、病気が悪化した時不安だ、と考える人が多いからだそうです。病棟の耐震工事などで経済的にも病床数を増やすための投資がしにくいというのも現実です。特に東京は地価も高く、看護師も少ないため他県に比べて約10%自宅で亡くなる人が多いそうです。これからどのように在宅ケアスタッフを増やせるかが課題となるようです。

2つ目は、ベストサポーターシップケアや延命中止にスムーズに移ることが出来ていないという事実です。理由は、医者がbad newsを伝えられない、数%の可能性であるのにもかかわらず期待を持たせてしまうような説明をしてしまう、というようなことがあるからだそうです。人間は起こってほしいと願う事象の生起確率を高く見積もり、逆に起こってほしくないと思う事象については低く見積もるという願望的思考をする人が多いということは避けられません。そこでこの問題解決にはAIが役に立つのではないかと私は考えました。AIが患者に現状をしっかりと伝えることができれば、アドバンス・ケア・プランニングの時間を設ける事も可能ではないでしょうか。

がん予防には、腸の調子を整えること、酒は飲みすぎないこと、紫外線を浴びすぎないこと、野菜を食べることが効くそうです。これらを心がけ健康に生きていきたいと思いました。

西東京センター便り

＜西東京YMCA便り＞ 10月

中里 敦

少しずつ秋の装いとなり、実りの秋といわれるように神様の恵みを多く感じられる季節となってきました。皆様には日頃より西東京センターをお支えいただいていることに感謝申し上げます。

YMCAはワイズに代表されるように多くの人によって支えられています。その1つに会員の方がいます。8月末日での会員現況で、西東京は「104名」という会員部、山手センターに続く多さです。また、全体で「1,018名」の会員数に対し1割近くが西東京となります。4月に行われた「西東京60年記念会」を機に会員になった方も多くいます。YMCAに直接関わっていた時から時間が経ってもYMCAに思いを馳せていただけることを嬉しく感じます。会員の皆様とは直接会って言葉を交わすことは少ないですが、これだけ多くの方々に支えられていることは本当に感謝であり、心強くもあり、励みにもなります。これからも多くの方々が支えたいと思えるセンターであるよう努力していきたいと感じています。また、60年記念会では礼拝献金を西東京のためにいただき、会員、ワイズ、リーダーなどに使っていただけるよう新しい机を購入することもできました。(写真)

秋はYMCAにとってイベントが多く、西東京の2つのイベントをご紹介します。『リーダー感謝会(10/12)』は、八王子ワイズメンズクラブと東京武蔵野・多摩ワイズメンズクラブの共催となります。リーダーたちの夏キャンプ報告を聞いていただく中で、YMCAの活動を理解していただくだけでなく、リーダーにとっても日頃お世話になっているワイズの働きを知り、交流の機会ともなります。『西東京センター会員の集い(11/3)』は、野外活動や定例活動、会員活動などの報告をさせていただき、西東京の働きを知っていただきながら、少しでも身近に感じていただければと考えております。また、当日は楽しみながら聞ける卓話も予定しています。

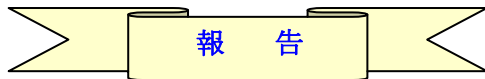
このようなイベントの中で、ワイズ、会員、リーダー、職員が交流しながらつながりを作れればと願っています。ぜひ、多くの方のご参加をお待ちしております。

(お 話)

キリスト教関係の建築をされていていらっしゃる会社からいただいた暑中見舞いに、詩編30:5として、「夕暮れには涙が宿っても、朝明けには喜びの叫びがある」と印刷されていて、興味をそそられたので新共同訳をご紹介します。夜泣き通すのと夕暮れに涙が宿るのは悲しみの度合いが違いますが、聖書の言葉で「夜」は死を意味します。それに伴って朝は新生です。

朝元気にすがすがしく起きられるのはまさに恵です。何気なく過ごしている毎日が新生なのだと思うとき、一日の大切さを改めて感じさせられるのではないのでしょうか。恵と新生を夢見る詩人と共に学びの秋を満喫していきたいものです。

仲田 達男



9月第一例会報告

日時：2016年9月10日（土）午後6時～8時
場所：北野事務所大会議室
卓話：「がんの疾患軌跡とアドバンス・ケア・プランニング」
講師 田上正氏 東京医科大学麻酔科学分野臨床教授 緩和医療部部長（熊本むさしクラブ会員）
出席者（敬称略）
長谷川、山本、中塚、辻メン・メネット、茂木、望月、並木メン・メネット、佐藤、大久保メン、メネット、多河、福田、久保田メン・メネット、
（中大ひつじぐも）牧野充幸（3年）佐藤千紘（2年）渡邊敦（2年）坂本菜美（1年）
（ゲスト）笈川光郎、斎藤道彦、木村浩通、石川敏子、岡垣修武、酢屋善元
（ビジター）東京西クラブー 神谷雅子、河原崎和美、高嶋美智子、鳥越成代、本川悦子、吉田明弘
東京武蔵野多摩クラブー 山口直樹、東京世田谷クラブー 太田勝人、東京たんぽぽ一服部節子、藤江喜美子
計37名
小口：9月9～11日まで、YVLF（ユースリーダー・ボランティアフォーラム）YMCA 山中湖センター参加の為欠席
3. 今後のスケジュール
インターナショナル・チャリティラン：
日時：9月22日（木・祝）木場公園ボランティア希望される方は至急、中塚会長まで連絡すること。
1チーム費用：東京武蔵のクラブと当クラブ各5万円寄付。合計10万円の寄付
今日現在出席者・ボランティア：小口、長谷川、久保田（コース誘導）集合8：30
4. あずさ部会：
日時：10月22日（土）13：30～16：30 会場：在日本韓国YMCA 登録費：4,000円
出席希望者は中塚会長まで連絡してください。10月の第2例会としますので奮って出席して下さい。
出席者：久保田、中塚、小口、長谷川、福田、多河
5. 東京YMCA 西東京センター リーダー感謝会
日時：10月12日（水）会場：東京YMCA 西東京センター
寄付金：東京武蔵野と当クラブ各15,000円
出席者：久保田、中塚、小口、長谷川、並木（受付中）
久保田は9月第2例会は北東部会・盛岡クラブ10周年に出席のため第2例会は欠席。
6. ワイズ東西日本区交流会：2017年2月4日・5日
会場：東山荘にて一泊二日
なお、使用済み切手は各クラブ会長などが当日東山荘に持参する。
7. 武蔵野多摩クラブ例会 9月14日
出席者：小口、長谷川、

9月第二例会報告

日時：2016年9月17日（土）6～7：30
場所：北野事務所
出席者：中塚、長谷川、茂木、福田、小口・・・5名
久保田メンはもりおかクラブ10周年記念例会出席
報告：9月行事記録の確認は省略。
協議事項：
① チャリティーコンサートについて（茂木メン）
出演者/上田亜紀子クインテットの5名：上田亜紀子（クラリネット）、武田将（ビブラフォン）、山本琢（ピアノ）、小林真人（ベース）、竹内武（ドラムス）
日時・会場/2017年3月11日 北野市民ホール
会場を確保の為、地区教育委員会と市民センターの許可を得る為に優先契約書類を近日中に提出する。
八王子市の後援を受ける為に、後日申し込みを市役所に出す。
協議事項として、
楽器運搬費用をどうするか、その為にチケット代を上げるか（例えば1000円→1200円）を10月第一例会で決めないと、提出書類に記載が出来ないので、次回に決定する。
楽器運搬に関しては、どのようになっているのかを出演者に聞く。
② ワイズガーディン作業について
わくわくビレッジ花壇の作業を9月23日（金）10時から、松葉ボタンを抜いて、春の菜の花のタネまきをする、小1時間の予定。
③ 11月例会の卓話の件
部長訪問にあたるので、浅羽部長に部長方針と共に、お話をしてもらおう。
例会日11月12日（土）は、北野事務所が使用出来ない為、場所を北野町会館になる。C班担当。
④ 「東日本区定款改定案」についての意見。
8月第二例会において検討された久保田メンの意見を提出する。
（久保田メン意見：担当主事会員を決めるにあたり、YMCA 関係者を総主事が推薦となっているが、「職員」から推薦と明確にした方が良い。
代議員総会議長についての修正お直前部長の互選としているが、互選の手間を省く為に、直前理事でどうか。）
*BF2016年9月報告
切手：（国内）久保田 165g 海外 0g 累計515g
プルタブ 久保田 440g 累計440g
* 老人デイサービスセンター鑑水*
【報告】 9月13日（火）
参加者：赤羽、石井、色川、下重、調、多河、山中、茂木
【予定】 10月25日（火）手工芸 14:00～15:00

高尾わくわくヴィレッジ10月号

佐藤信也

9月のTWVは猛暑日から一転し雨の日が多く続きました。その中でも、3,000名を越える宿泊者がありました。特に、宿泊者は特別支援学校での宿泊研修、クラブ活動などで幅広くご活用頂き、日帰りでは20名~30名のグループにて体育室、研修室での卓球、バドミントン、柔道、スポーツ吹き矢のご利用が多く、80名程で保育園の父母会主催にて野外炊爨場・体育室を利用し親睦を深める団体もみられました。

また、東京都より委託されている社会教育事業「エンジョイファミリーキャンプ」(小学生の子と保護者)を対象としたキャンプが実施されました。このキャンプは、触れ合いの時間が不足してきていると感じている家族が、一つのテントに宿泊するという体験を中心に、自然との触れ合いや日常ではあまりできない様々な体験を通じて、家族間の新たな気づきや、他の家族と交流できる場を作り、それぞれの立場で子育てのを中心に情報交換を行うことで、今後の子育てに役立ててもらえることをねらいとしたプログラムです。参加者は17組43名が集い家族の交流もさることながら家族間の交流もでき大いに盛り上がりました。今日、日本では核家族が加速し子どもの貧困も社会問題となっている中、このような趣旨のキャンプも実施できた事は意味のあるものであると感じています。高尾では今後も社会の課題に対し取り組みを進めて行きたいと考えております。

さて、10月23日には今後起こりえる自然災害の備えについて「やってみよう!!わくわく防災」これで、「いざ」というときも大丈夫?と題した小・中学校を含むご家族を対象としたプログラムを計画しています。自然災害に対する機運が高まる中、非常時でも『自ら考え、動く』事ができるように『トライ』・『チャレンジ』の視点で実際にプログラムを進めて行きます。今回のプログラムは、災害時に役立つ日用品の活用をピックアップし、実際の作成し組み立て(リュックサック・食器・パーテーション・簡易コンロ)を通じて、非常時の個々の課題を発見する機会と非常食の試食体験を行う予定としておりますので興味・関心がある対象の方々へご案内を頂ければ幸いです。勿論、ワイズの皆様もお孫さんとご一緒にご参加も頂けますので是非ご参加下さい。

尚、TWVの宿泊予約は一般の方々(小グループ)では11月から2017年3月までの予約が可能です。ご家族、お友達ご友人にてご利用も頂けますので是非この機会にご利用頂きますようお願い申し上げます。お待ちしております。

行事名：やってみよう!!わくわく防災

日時：10月23日(日) 午前10:00~14:00

内容：災害時に役立つ日用品の活用アイデア体験・ズボンを利用したリュックサック作り・ダンボール活用・ペットボトルや紙での食器作り・簡易コンロ作成

対象：小・中学生を含むご家族(保護者1名以上)

定員：定員8組(1組は4名以内)

費用：一人分 972円(税込) 参加費：1人432円

持ち物：軍手・ベルト通し付き長ズボン

<西東京センター 主な行事予定>

【10月】

2日(日)「西東京ファミリーフェスティバル」

@高尾の森わくわくビレッジ

いくつかある定例野外活動、ワイズメンズクラブがブースを出し、家族でブースを回りながら、工作やクッキング、ゲームなどを楽しみます。西東京の活動、リーダーやワイズなど知っていただく機会になればと思っています。

12日(水)「リーダー感謝会」

@西東京コミュニティセンター

八王子ワイズメンズクラブ及び武蔵野・多摩ワイズメンズクラブの共催で実施されるイベントです。夏キャンプでのリーダーの活躍を報告いたします。ワイズ、リーダーの交流の場になり、お互いを知る機会になることを願っています。

【11月】

3日(火・祝)「ペタペタの会」及び「西東京センター会員の集い」

今回のペタペタの会は、国分寺周辺を歩きます。夕方からは、西東京センター登録の会員の方々に西東京の活動報告や卓話など予定しています。ワイズ、会員、リーダー、スタッフの親睦を持ちながらつながりを作っていければと考えています。

【12月】

4日(日)「ファミリークリスマス会」

@東京YMCA 医療福祉専門学校

西東京センターに関わる様々な方を対象としたクリスマス会です。礼拝に加え、子どもたちやワイズによる出し物、音訳ボランティアサークル「シジュウカラ」による絵本の音読、ラッフル抽選会なども行われます。



10月誕生日の会員

小口 多津子	10月 4日
辻 久子	10月29日
酢屋 善元(休会中)	10月11日
日	